

【原子力ワンプoint】 広く利用されている放射線

(126)社会的受容性（その2）

本コラムでは前回、「国は2016年9月、『多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会』を立上げ、風評被害など社会的な観点等も含めて検討を開始」と書きました。同委員会は2018年7月迄に9回、また8月には福島（富岡、郡山）と東京で、「多核種除去設備等処理水の取扱いに係る説明・公聴会」が計3回、開かれました。同委員会はこれまでに一体どのような議論を行ってきたのでしょうか。興味深いので今後、順を追って内容を整理してみましよう。

ゆりちゃん：はじめに、トリチウム水の取り扱いに関する小委員会が設置された経緯を教えてください。

タクさん：図1を見てください。これは“おさらい”になりますが、図の中ほどに記載の「トリチウム水タスクフォース（以下「タスクフォース」という）」は、多核種除去設備等処理水（以下「 ^3H 水」という）の処分方法として様々な選択肢を取り上げ、技術的成立性、規制成立性、処分に要する費用、期間などの項目ごとに技術的な評価を行いました。そして、2016年6月に報告書を作成しました。前回のコラムでも紹介しましたが、同報告書のおわりの章に、「トリチウム水の取扱いについては、風評に大きな影響を与えることから、今後の検討にあたっては、成立性、経済性、期間などの技術的な観点に加えて、風評被害などの社会的な観点等も含めて、総合的に検討を進めていただきたい」と、強い願いが記述されていました。国は、この提言を受けて2016年11月、「タスクフォース」で主査を務めた山本一良名古屋大学名誉教授を委員長とし、さまざまな分野の専門家で構成された「多核種除去設備等処理水の取り扱いに関する小委員会（以下「本小委員会」という）」を立ち上げたのです。

ゆりちゃん：「タスクフォース」はなぜ、これほど強く、「風評被害などの社会的な観点等も含めた検討」を期待したのですか？

タクさん：これには、山本主査の強い願いが反映されたようです。本小委員会の第1回目の議事録を見ると、高倉委員と山本委員長の間でなされた次のような会話が目につきました。高倉委員は、「安全性に関して、科学的な根拠で議論するのは非常にやりやすく、明確な答えが出るが、風評被害の影響が入ってくると、結論を出すのが非常に難しくなる」と、慎重な発言をしています。これに対して山本委員長は、「『タスクフォースの報告書』をまとめる時にも、高倉委員から、風評被害の影響を評価することは難しいとの指摘があった。しかし、私の気持ちとして、（避けて通ることはできない課題の一つと考え）、これは入れさせてくださいと言って記述した。そのこともあって、本小委員会が設置されたと理解していますが、（風評被害とは）本当に難しい話」と言います。委員長は、「風評被害を受ける方々と、消費者の方々に、放射線に対する恐怖心というか、嫌悪感というか、意味のある部分は当然あるのだけれど、過剰な部分もあると私などは感じている。そういうところも明らかにし、どうやって（ ^3H 水の放出）基準が決められ、それがどういう安全裕度をもって決められているか、わかりやすく説明することが必要となる。そういうことを発信することで少しでも気持ちというか、感じ方が変わってくれると嬉しい。（このような議論を地道に進め、 ^3H 水の放出基準がどれくらい怖いとか、怖くないとか、どれくらい安全かとか、そういうことがもう少しクリアーに説明できるようにならないと）風評被害というものはなくなる」と所感を述べました。

ゆりちゃん：本コラムでは、今後、どのような内容を紹介する予定ですか？

タクさん：表1を見てください。本小委員会の審議状況を整理したものです。第1回目は2016年11月11日に

開かれ、タスクフォースがとりまとめた報告書の紹介がありました。そして、「第2回目は12月16日に“風評問題のメカニズムとその対策”等、第3回目は平成29年2月24日に“福島県産品に対する風評の実態と農業再生に向けた取り組み”等、第4回目は4月21日に“多核種除去設備処理水の取扱いと漁業への影響について”等、第5回目は6月2日に“福島県産商品の取扱い状況と風評への取り組み”等、第6回目は10月23日に“リスクコミュニケーションとは”等、第7回目は平成30年2月2日に“風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略”等、第8回目は5月2日に“トリチウムの性質についての修正”等、第9回目は7月13日に“原子力災害による風評被害を含む影響への政策タスクフォースの活動について”等のヒアリングが行われました。さらに、2018年8月には国民を対象にして説明・公聴会（第1回目30日『富岡会場』、第2回目31日『郡山会場』、第3回目31日『東京会場』）が開かれ、広く意見募集が行われました。

(*) 本コラムでは、次回に第2回委員会、次々回に第7回委員会、そして最後に国民を対象にした説明・公聴会を取り上げ、そこで議論された内容を順次整理していく予定です。

(原産協会・人材育成部)

(* <http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/osensuitaisaku/committee/takakusyu/setsumei-kochokai.html>)

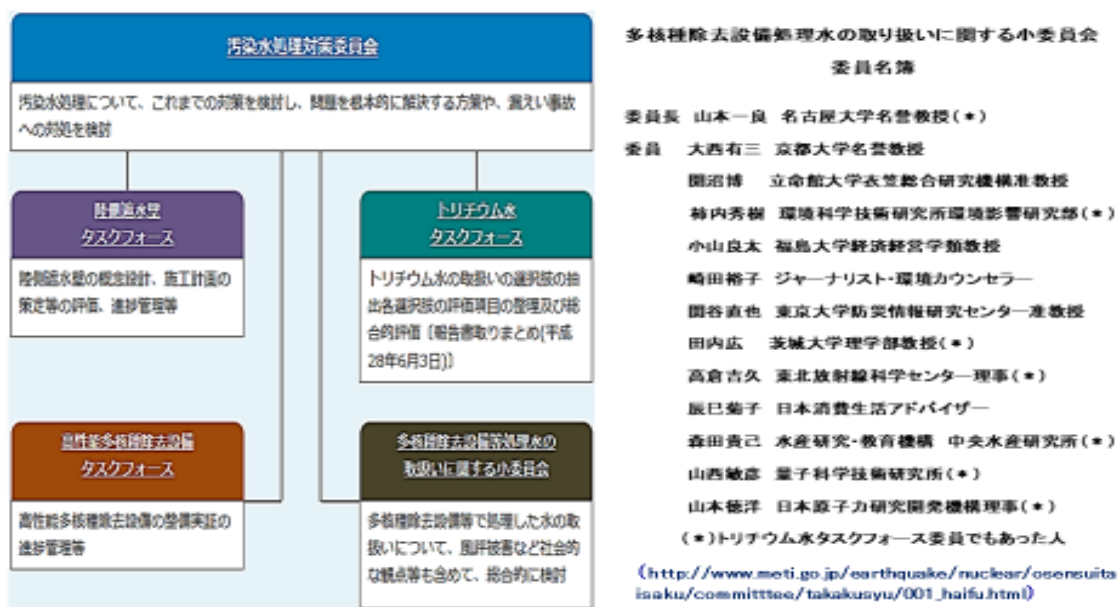


図1. 多核種除去設備処理水の取扱いに関する小委員会の位置づけと委員名簿
(経済産業省資料「<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/osensuitaisaku.html>」)

表 1. 多核種除去設備処理水の取扱いに関する小委員会の審議事項

http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/osensuitaisaku/committee/takakusyu/pdf/009_04_02.pdf

9 頁（記載の一部を分かり易く手直し）

第 1 回（平成 28 年 11 月 11 日）

- ☛ トリチウム水タスクフォース（とりまとめた報告書について）等

第 2 回（平成 28 年 12 月 16 日）

- ☛ 関谷委員（風評問題のメカニズムとその対策）、開沼委員（福島の実況と風評被害）、山西委員（トリチウムの物性等について）等

第 3 回（平成 29 年 2 月 24 日）

- ☛ 小山委員（福島県産品に対する風評の実態と農業再生に向けた取組み）、福島県（福島県の風評・風化対策強化戦略の現状と方向性）、水産庁（福島県水産業の現状について）等

第 4 回（平成 29 年 4 月 21 日）

- ☛ 北海学園濱田教授（多核種除去設備素利水の取扱いと漁業への影響について）、JA 全農福島猪俣本部長（福島県産農畜産物の風評被害の実情等について）等

第 5 回（平成 29 年 6 月 2 日）

- ☛ （株）ヨークベニマル芳賀専務（福島県産商品の取扱い状況と風評への取組み）、辰巳委員（食品の選択において消費者は何を考えているか）、崎田委員（福島復興を進めるために廃炉と地域・社会のコミュニケーションを考える）等

第 6 回（平成 29 年 10 月 23 日）

- ☛ リテラジャパン代表 西澤真理子（リスクコミュニケーションとは）等

第 7 回（平成 30 年 2 月 2 日）

- ☛ 復興庁（風評払拭・リスクコミュニケーションの強化戦略）、東京電力（風評被害に対する行動計画）、小委員会事務局（トリチウムの性質等について）等

第 8 回（平成 30 年 5 月 2 日）

- ☛ 小委員会事務局（トリチウムの性質等の修正）、（社会的影響の考え方）等

第 9 回（平成 30 年 7 月 13 日）

- ☛ 復興庁（原子力災害による風評被害を含む影響への政策タスクフォースの活動）等